

双葉町の復興に向けた取組について



2019年5月
福島県双葉町



双葉町内の復興・復旧の取組状況 (2019年5月10日時点)



③常磐自動車道双葉IC(仮称)整備

復興シンボル軸と合わせ広域道路ネットワーク形成のためのICの整備 (H29.6工事着手)



双葉IC(仮称)から県道広野小高線をつぶ道路の整備(約2,900m) (H30.11工事着手)

◀2019年度末供用開始予定▶

④復興シンボル軸整備(県)

双葉IC(仮称)から県道広野小高線をつぶ道路の整備(約2,900m) (H30.11工事着手)

◀2019年度末暫定供用開始予定▶

④町営墓地(寺内前公園)の整備

津波被災地域・中間貯蔵施設予定地等のための共同墓地の整備 (H30.5完成)



◀H30(2018)年6月から申込開始▶

⑥アーカイブ拠点施設整備(県)

震災・事故の記録・教訓等を広く国内外に発信する「学び」と「交流」の場として整備 (H31.2工事着手)



◀2020年夏開設予定▶

避難指示解除準備区域

再生可能エネルギー
産業再生モデルゾーン (平成28年度)

被災伝承・復興記念ゾーン

海岸堤防
海岸防災林

復興記念公園

新産業創出ゾーン
(中核地・復興産業拠点)

帰還困難区域

特定復興再生拠点区域

双葉町農地保全管理組合設立

荒廃した農地を保全し、営農再開につなげていくことを目的に設立

◀H30(2018)年7月から活動開始▶

まちづくり会社設立

復興・地域活性化等を目的とした地域密着型の公共性の高い、民間担い手組織としてまちづくり会社を設立

◀「一般社団法人ふたばプロジェクト」として、H31(2019)年3月発足▶

⑧駅西地区生活拠点整備

住宅団地等の整備と生活関連サービスの提供に向けた環境整備 (H30.11実施設計、地権者等への説明)
・官民複合施設 (H30.10基本構想策定着手)
・住宅施設 (H30.12基本構想策定着手)

◀2022年春居住開始目標▶

②JR双葉駅自由通路等整備

新市街地と既成市街地を結ぶ東西自由通路の整備と駅改良(橋上駅舎化) (H30.8工事着手)



◀2019年度末供用開始予定▶

①中野地区復興産業拠点整備

事業再開や企業誘致の受け皿としての事業用地の整備(約49.6ha) (H30.1工事着手)



◀H31(2019)年2月一部供用開始済▶

⑦復興記念公園整備(国・県)

犠牲者への追悼と鎮魂、復興への強い意志を発信する場として整備 (H31.3基本設計完了)

◀2020年度一部開設予定▶

⑤産業交流センター整備

就労者等のサポート施設、来訪者サービス施設として整備(コンビニ、カフェ、レストラン、物産販売、貸事務所、会議室、休憩室など) (H31.4工事着手)



◀2020年夏開設予定▶

【企業立地の状況】
●立地協定済…3件
●現在約20社と立地協議中(H31.3末現在)

インフラ復旧の取り組み状況

道路	応急復旧済、順次災害復旧工事
上水道	被害状況調査/順次復旧工事(中野拠点優先)
下水道	被害状況調査/全体計画・事業計画策定中
電気	被害状況調査実施/順次復旧工事(中野拠点優先)
電話・通信	被害状況調査実施/順次復旧工事(中野拠点優先)

※掲載した画像は現時点での整備イメージを示したものです。

復興ツーリズムの形成

- 12市町村を中心に、震災の教訓や復興の現状を学ぶことができる、広域周遊ルートを形成し、人の流れを創出することが重要。
- 県アーカイブ拠点施設(2020年夏開業)や復興祈念公園(2020年夏一部利用)での震災学習、福島第一原子力発電所や廃炉資料館の視察など、12市町村の集客資源を有機的に連結する必要があり、各市町村の横連携や国県など関係機関のご協力が不可欠。
- 外国人観光客を含む来訪者の周遊促進には、自家用車以外のモビリティ手段確保が欠かせない。(例:カーシェアリング・コミュニティサイクル)

浪江・双葉・大熊における一例(イメージ)

